

第23回 神奈川県弁護士会人権賞 受賞決定者

1	西野 博之	略歴	<p>1986年から不登校の子どもたちの居場所づくりにかかわる</p> <p>1991年に川崎市高津区に「フリースペースたまりば」を開設</p> <p>1998年から「川崎市子どもの権利に関する条例」(2000年成立)の調査研究委員会世話人に就任、同条例の策定に携わる</p> <p>2003年に「川崎市子ども夢パーク」完成。川崎市(生涯学習振興事業団)から同パーク内の「フリースペースえん」の運営を受託</p> <p>2006年から川崎市子ども夢パークの所長を務める</p> <p>フリースペースえん代表。川崎若者就労自立センター「ブリュッケ」総合アドバイザー。早稲田大学、神奈川大学非常勤講師。精神保健福祉士</p>
		表彰事項	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童の課題が社会に提起され始めた当初のころから、自分の居場所を見いだせない子どもたちの居場所をつくることに献身的に取り組み、基盤を整備してきた。仲間と連携し、社会を動かしながら、子どもの人権を保障するために自ら先頭に立って発信、行動してきた。 ・1986年に「フリースペースたまりば」を開設し、32年間、ひきこもりなど生きづらさを抱えた若者たち、さまざまな「障がい」のある人たちとも出会い、ともに地域で育ち合う場を続けてきた。
		推薦理由	<ul style="list-style-type: none"> ・「だれもが『生きている』ただそれだけで祝福される。そんな場をみんなで作っていきたい」と子どもたちに寄り添い、最も早い時期から子どもの居場所づくりを実践し続け、不登校児童・生徒やひきこもり傾向にある若者たち、さまざまな障がいのある人たちの心の悲鳴に耳を傾け、すべての子どもたちの人権保障に向けて社会環境の整備に大きく寄与してきた功績は、非常に大きい。 ・生きづらさを抱えた若者たちに対して頭が下がる活動を継続して続けている。子どもの人権をしっかり考えている。
2	非核市民宣言運動・ヨコスカ	略歴	<p>1972年、米空母ミッドウェイが横須賀港を母港としたことを契機に発足した。</p> <p>1976年2月にスタートした月例デモは、2018年5月で508回となる。</p> <p>ヨコスカ平和船団、自衛官—市民ホットラインなどの活動もある。</p>
		表彰事項	<p>基地の街横須賀で、40年以上持続して平和の声を上げ続けてきた。</p> <p>基地問題をわかりやすく解説した各種ブックレットを発行している(30冊)。</p> <p>自衛官ホットライン、アンケート、裁判支援等、自衛官の人権問題にも取り組んでいる。</p> <p>「糾弾より対話」をモットーに、「敵を作らない活動」を続けている。</p>
		推薦理由	<p>「平和なくして人権なし」平和憲法の理念を守る当団体の活動はまさに人権賞にふさわしいと考える。</p>